

第2章 アンケート調査の結果

離島における高校教育の在り方等の検討に資すること等を目的として、沖縄県教育委員会及び沖縄県内の市町村教育委員会を対象とした ICT を活用した教育活動に関するアンケート調査及び高校のない離島を有する市町村の首長を対象とした ICT を活用した高校の設立意向に関するアンケート調査を実施した。

なお、本調査では、ICT を活用した高等学校とは、「テレビ会議システムなどの ICT（情報通信技術）を活用し、島内の学校に通学しながら遠隔地の高等学校の授業を受けることができる、学校を指す。（同級生と画面を通じてつながっている。）」とした。

図表 アンケート調査の概要

アンケート調査名	対象	配布数	回答数	回答率
ICT を活用した教育活動に関する調査	・ 沖縄県教育委員会 ・ 沖縄県内の市町村教育委員会	42	42	100%
ICT を活用した高等学校の設立意向に関する調査	高校のない離島を有する市町村の首長	16	16	100%

各市町村の所管の小学校、中学校の平均の数、最多数・最少数は下記の通りである。

	平均	最多	最少
小学校	6.3	36	1
中学校	3.4	18	1

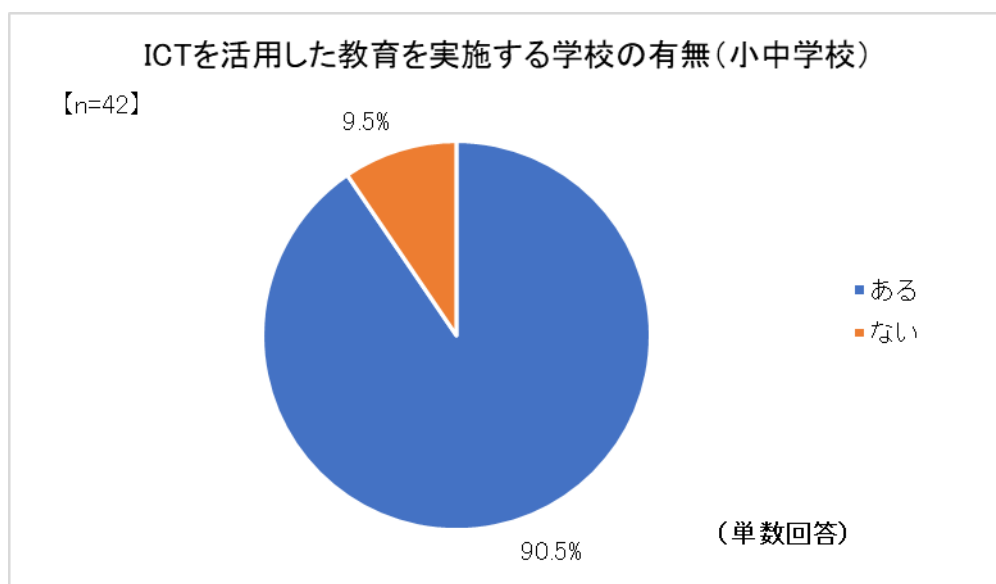
沖縄県教育委員会は県立高校 60 校及び県立中学校 3 校を所管している。

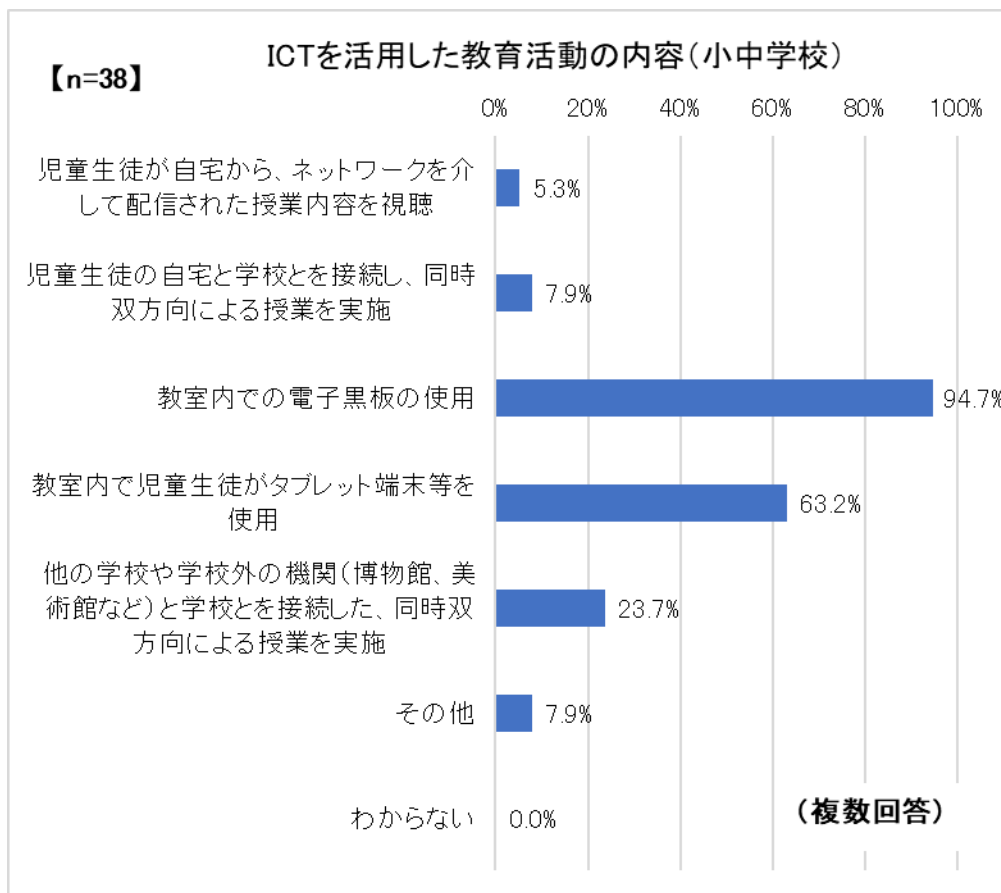
第1節 ICTを活用した教育活動（各教育委員会対象）

1-1 小中学校について（沖縄県・市町村教育委員会対象）

ICTを活用した教育の実施をする学校があるかどうかについて、90.5%が「ある」と回答しており、9.5%が「ない」と回答している。

ICTを活用した教育活動の内容は「教室内での電子黒板の使用」が94.7%、次いで「教室内で児童生徒がタブレット端末等を使用」が63.2%、「他の学校や学校外の機関（博物館、美術館など）と学校とを接続した、同時双方向による授業を実施」が23.7%となっている。

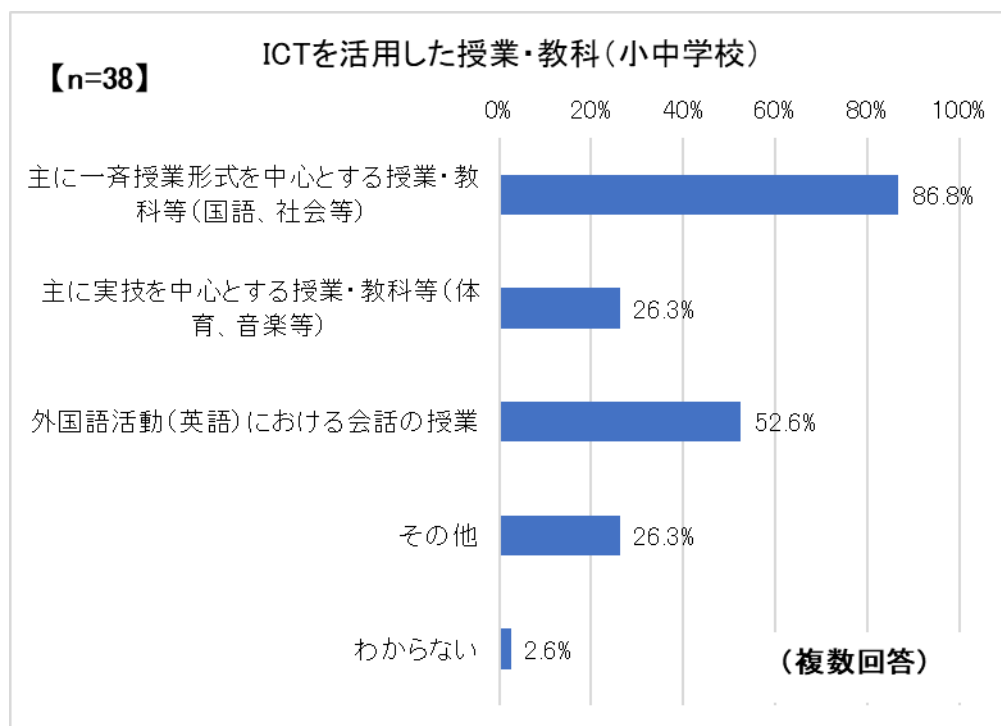




ICT を活用した教育活動の内容の「その他」の回答として以下のような自由記載があった。

- ・ 海外や他県、他地区の児童生徒と交流
- ・ 授業支援ソフトを活用
- ・ 指導者用デジタル教科書の活用

ICTを活用した授業・教科に関しては「主に一斉授業形式を中心とする授業・教科等（国語・社会等）」が86.8%を占めている。次いで「外国語活動（英語）における会話の授業」が52.6%。「主に実技を中心とする授業・教科等（体育・音楽等）」は26.3%であった。

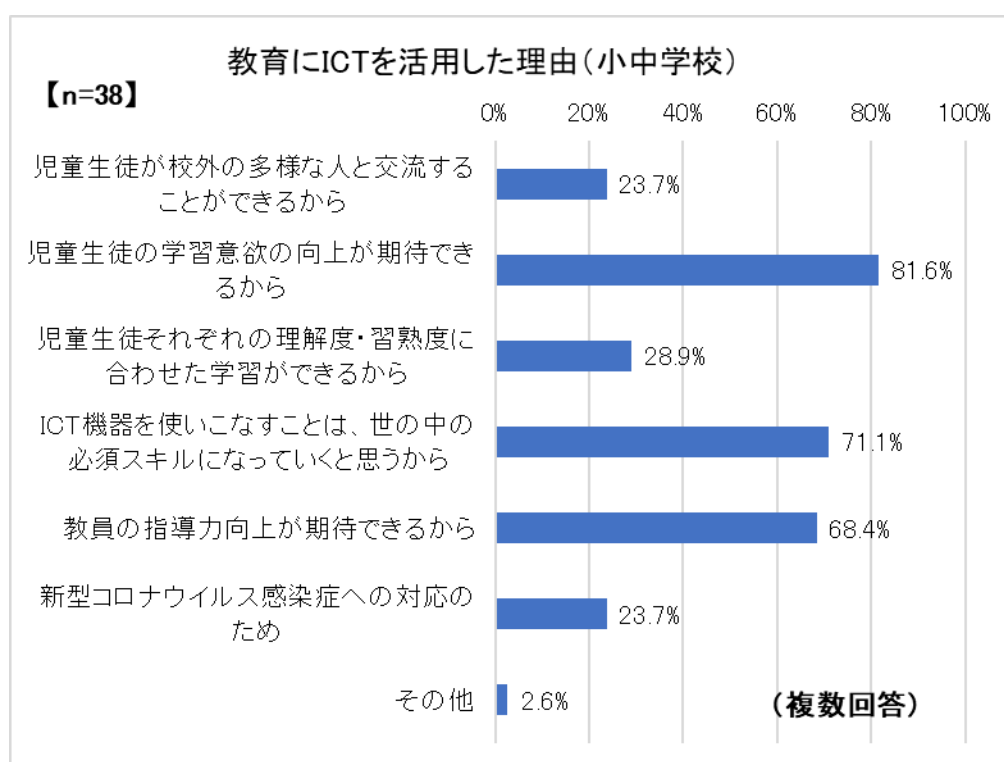


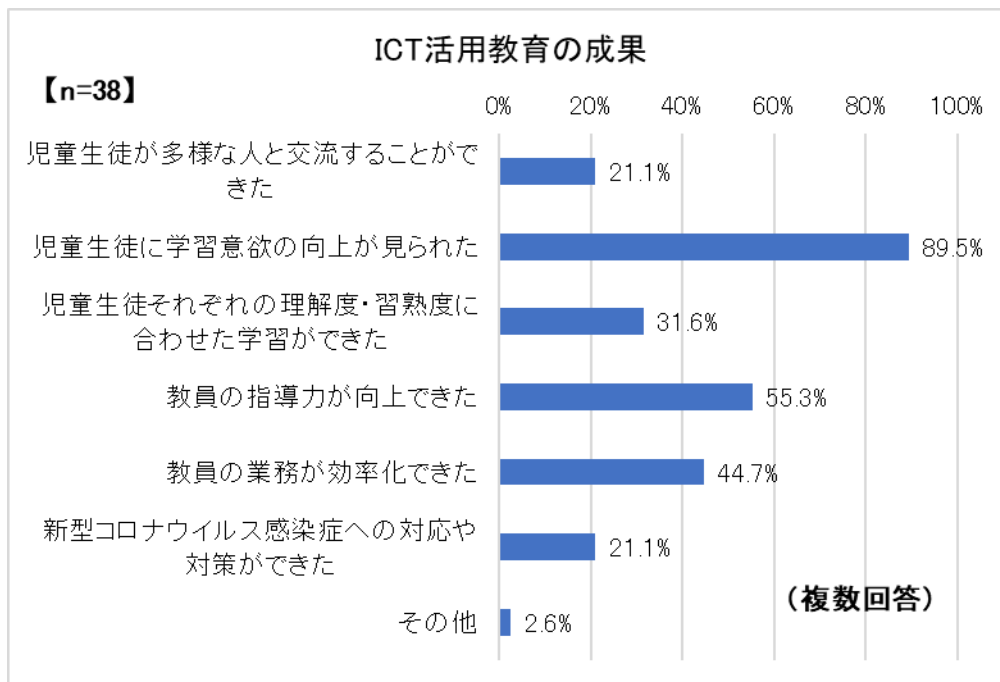
その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・家庭科（裁縫）実技、理科
- ・総合等
- ・修学旅行の現地調べ
- ・海外や他県、他地区の児童生徒と交流
- ・村内学校間でのネットワーク交流
- ・国際交流
- ・プログラミング教育、フラッシュ暗算、教育ソフトの活用
- ・小・中学校ともに、主要5教科について指導者用デジタル教科書を活用
- ・朝の会、LHR、保健体育、外部学習教材の活用

小中学校で教育に ICT を活用した理由に関しては「児童生徒の学習意欲の向上が期待できるから」が 81.6%で最も多く、次いで「ICT 機器を使いこなすことは、世の中の必須スキルになっていくと思うから」が 71.1%、「教員の指導力向上が期待できるから」が 68.4%となっている。

ICT を活用した教育の成果に関しては「児童生徒に学習意欲の向上が見られた」が 89.5%を占め、次いで「教員の指導力が向上できた」が 55.3%となった。小中学校では ICT を活用した目的に応じた一定の成果が得られたと考えられている。

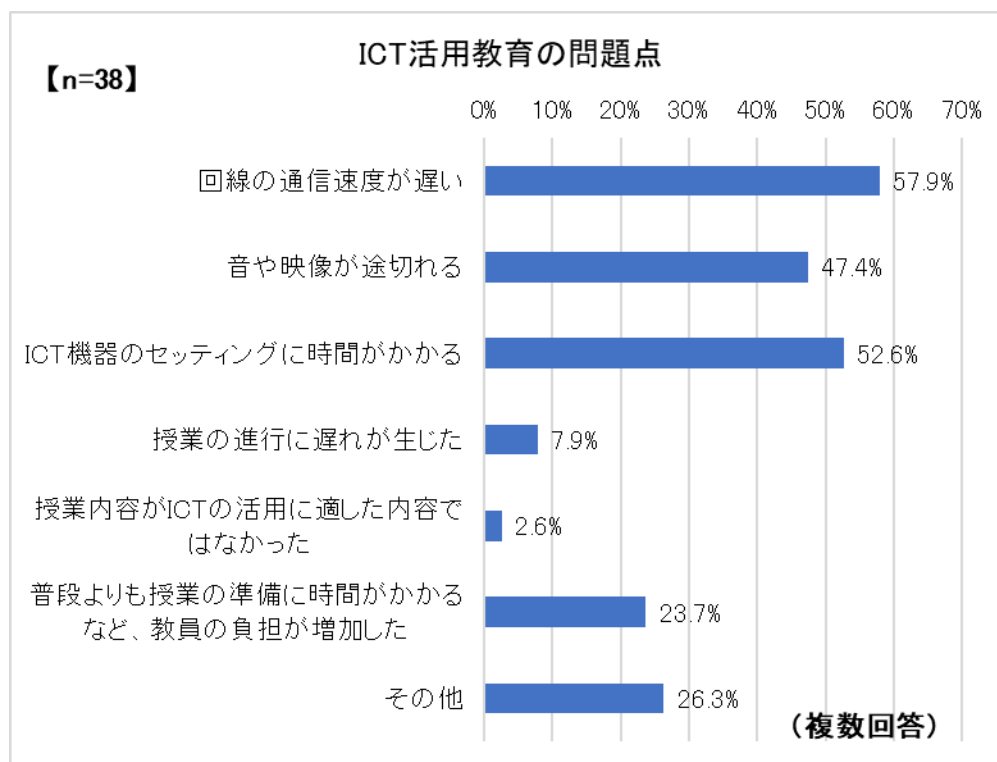




その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・自分の考えを表現し、そのことに対する考えを得られやる気が高まった

ICTを活用した教育の問題点に関しては「回線の通信速度が遅い」が57.9%で最も多く、次いで「ICT機器のセッティングに時間がかかる」が52.6%、「音や映像が途切れる」が47.4%と主に技術的な問題点が上位となった。



その他の回答として以下のような自由記載があった。

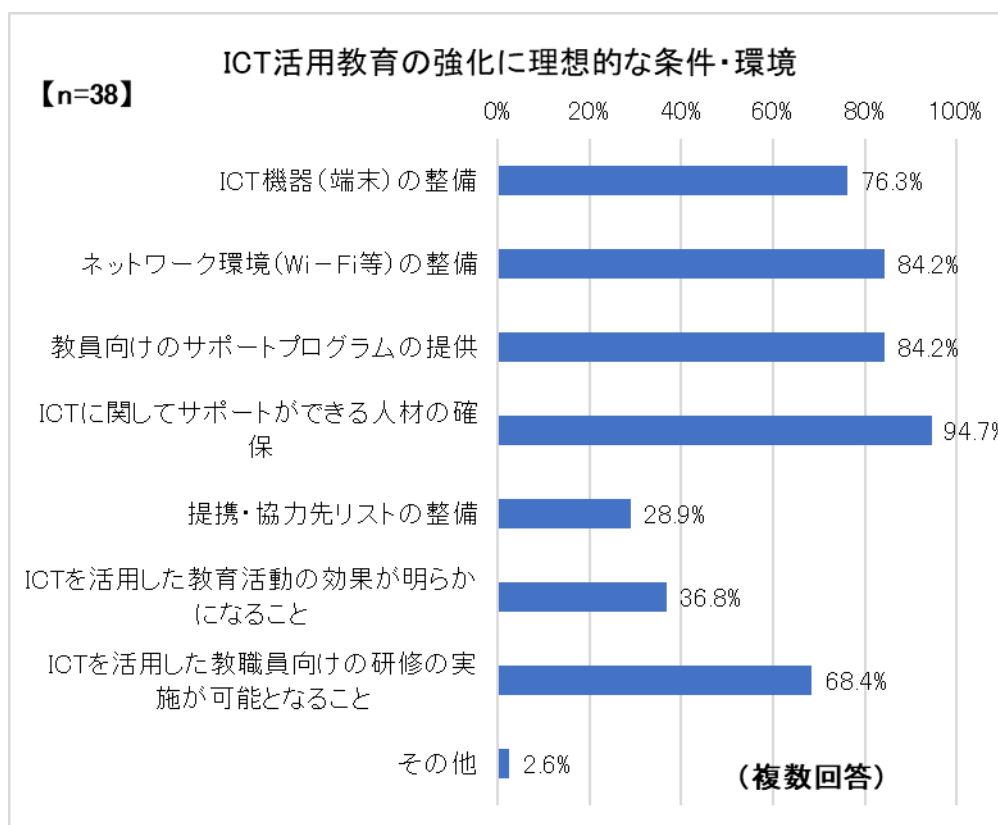
- ・外部委託のICT指導員を配置し操作支援のための経費負担が課題となる
- ・使用方法が不十分
- ・精密機械のため、故障等が見られる
- ・教員の指導力に大きな差がある
- ・不具合対応等
- ・教師の力量により活用の差がある
- ・教職員のICTスキルの差
- ・各校ごとにNW環境に差がある
- ・ICT機器の維持に費用がかかる
- ・ICTを活用した活動には、学校ICT支援員の継続的な配置が必要である

授業以外で実施した ICT を活用した教育活動について、自由記載で下記の回答があった。

<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動（係活動）として、朝の時間、給食準備時間、給食時間、放課後、朝の会・帰りの会等で活用 ・児童生徒と共に、学校生活のあらゆる活動を画像・動画で記録し、よりよい生活づくりに向けた振り返りの場で活用
<ul style="list-style-type: none"> ・英語及び総合の授業において、海外の中学生等とのオンライン交流を複数回開催し、異文化交流を図った
<ul style="list-style-type: none"> ・研修等
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や総合などの報告会
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による休校時に、児童生徒の自宅と学校を接続して朝の会（健康観察等）を実施 ・在宅勤務職員と接続した職員会議の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・【他県、他地区との交流】給食時間や休憩時間、部活動の時間での交流 ・【海外との交流】交流先（台湾）の学校とつないで、ホームステイ事前及び事後の交流
<ul style="list-style-type: none"> ・村外の学校とネットワークで交流
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や帰りの会にて、健康チェックや振り返りで ICT を活用 ・朝会などの集会活動でオンライン集会を実施
<ul style="list-style-type: none"> ・時間割や連絡事項等の表示、児童生徒玄関や廊下等での子供たちの活躍の様子の投影等
<ul style="list-style-type: none"> ・集会や講話などを教室の電子黒板で表示する
<ul style="list-style-type: none"> ・人型ロボットのプログラムを委員会活動において作成し、取組の周知活性化を図る
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒会役員選挙で立候補者の演説を各教室の電子黒板でリモート放送を行った
<ul style="list-style-type: none"> ・県外の児童生徒とのオンライン交流
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ休業時は、朝の会を行う際に ZOOM 等を利用して行った
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会総会を各クラスへ配信 ・各クラスへの運動会の配信など ・3密を避けるため、配信にて講義等の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・島外（他県等）にある学校との交流事業 ・理科の実験に関する出前授業をリモートにて実施

（自治体の回答ごとに記載）

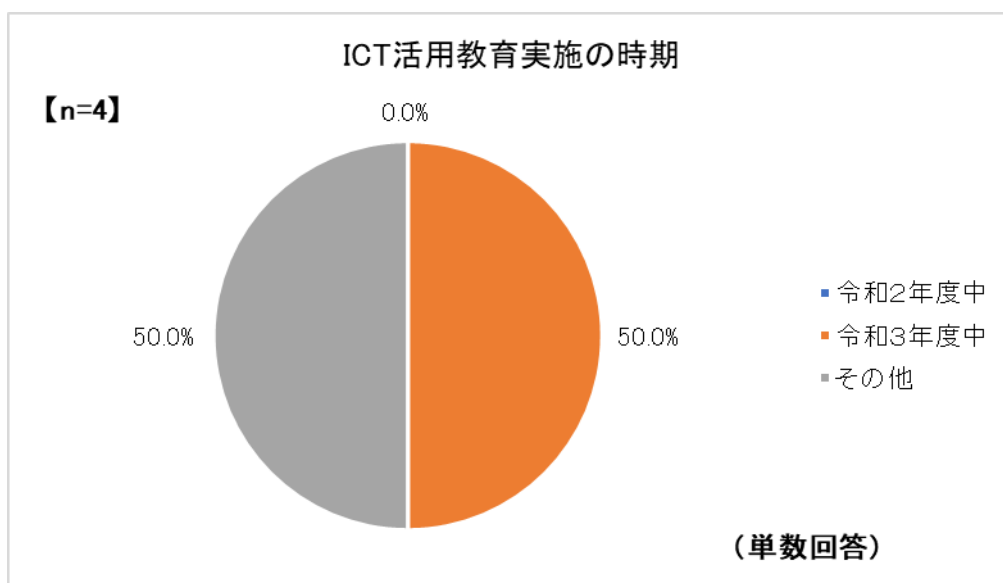
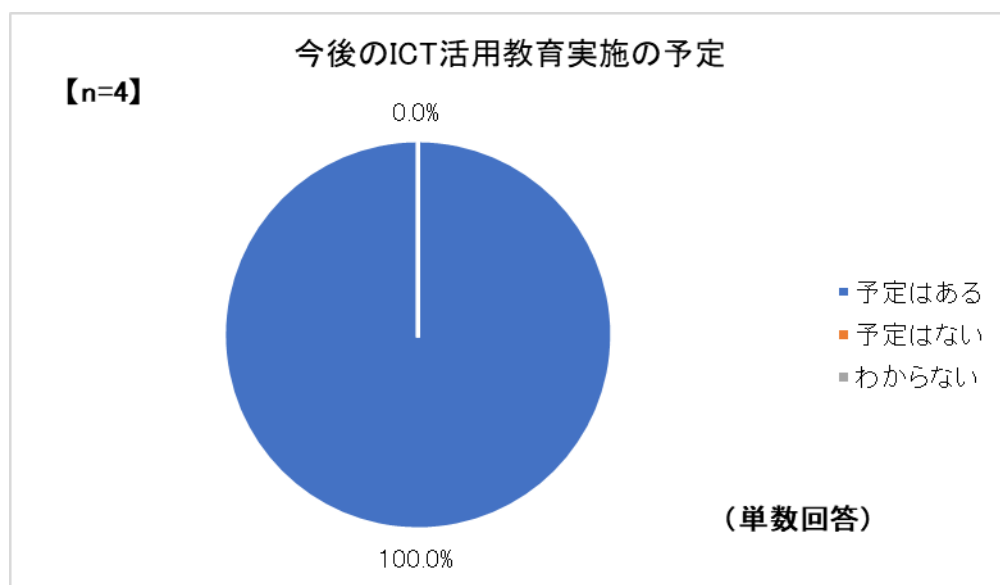
ICTを活用した教育の強化に求められる条件・環境としては、「ICTに関してサポートができる人材の確保」が94.7%で最も多く、次いで「ネットワーク環境（Wi-Fi等）の整備」「教員向けのサポートプログラムの提供」がそれぞれ84.2%であった。



その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・上記1「ICT機器（端末）の整備」及び2「ネットワーク環境（Wi-Fi等）の整備」に関連してネット回線使用料の予算確保が重要である

現在、ICT を活用した教育を「実施していない」と回答した自治体に実施予定と実施時期を聞いたところ、「予定はある」が 100%となった。実施時期については「令和 3 年度中」と「その他」が 50%となり、「令和 2 年度中」は 0%であった。



その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・令和 5 年ころ：教諭の準備ができてから
- ・今はスキルがバラバラで厳しい
- ・GIGA スクールの事業申込中で準備出来次第のため、令和 3 年度の予定
- ・令和 2 年度から仮実施し、3 年度から本格的に実施予定

ICT を活用した教育活動について、今後強化したいもの、実施したいもの、要望としては、自由記載で下記の回答があった。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 端末を活用した、授業改善
<ul style="list-style-type: none"> ・ 離島 ICT 教育における実証実験を踏まえて、オンラインでの授業や講演等を開催していきたい ・ 離島における ICT を活用した高校教育の在り方について、離島自治体間で連携してその実現に向けて取り組んでいきたい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 人 1 台の PC 配布。家庭に持ち帰り家庭学習で利用し、授業と連動させる。他校と交流。プログラミング等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別学習（個々の理解度や習熟度、興味関心に合わせた学習活動）
<ul style="list-style-type: none"> ・ GIGA スクール構想で「ネットワーク環境の整備」、「端末の整備」を行う予定なので、現在、特に実施したいものはない
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用した学校間の交流授業 ・ 教職員の ICT を活用した指導力の向上
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT の物だけではなくしっかり研修制度をサポートしてほしい ・ 苦手だから利用しないものに時間もお金も割けないのでスキルの統一をしてほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク環境の整備、ICT に関してサポートできる人材確保
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の使用頻度を高める
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器、操作等に関する総合的な組織体制及び人材（予算）の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 人 1 台端末を日常的かつ効果的に活用した個別最適な学びを追求したい ・ 1 人 1 アカウントを整備し、シングルサインオンなどのよりシンプルな連携を構築する
<ul style="list-style-type: none"> ・ 端末、ネット環境の整備、ICT 支援員の確保、計画的な教職員向けの研修
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者用端末 1 人 1 台整備後のソフトやアプリの充実、有効活用を図るための人材確保、職員、研修の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員への研修、授業支援ソフト（ロイロノートスクール・Google Suite 等）の活用
<ul style="list-style-type: none"> ・ AI ドリル等を活用した個別最適化された教育
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の意識向上。授業をサポートできる人材の派遣
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用した教職員向けの研修計画を実施

<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の負担軽減
<ul style="list-style-type: none"> ・教員のスキルアップ
<ul style="list-style-type: none"> ・現状、ネットワーク環境が不安定な状況のため今年度でネットワークの整備を実施し、1人1端末での授業が不自由なく実施できるよう環境整備に取り組む
<ul style="list-style-type: none"> ・へき地校における複式学級解消の可能性を探りたい ・美術等の専門教科教諭が配置されない教科で、複数校同時授業実施の可能性を探りたい ・離島県の離島という本市において、児童生徒が島外（近隣離島、日本各地、海外）との交流を含めた学習を通して、学ぶ意欲の向上・広い視野を持ってもらえるような取組
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツールを活用するため、生徒全員分のアカウントを取得した学校もあり、中学校3年間を見通したICTの教育活動を展開していきたい

(自治体の回答ごとに記載)

1-2 高校について（沖縄県教育委員会対象）

高校における ICT を活用した実施の有無については、実施されているとの回答であった。活用の内容については、以下の回答であった。

- ・生徒が自宅から、ネットワークを介して配信された授業内容を視聴
- ・教室内での電子黒板の使用
- ・教室内で生徒がタブレット端末等を使用

活用されている授業や教科については以下の回答であった。

- ・主に一斉授業形式を中心とする授業・教科等（国語、社会等）
- ・主に実技を中心とする授業・教科等（体育、音楽等）
- ・英語における会話の授業
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休業期間中に生徒が自宅でオンライン学習ができるよう共通教科等を中心とした教材作成及び配信

ICT を活用した教育活動を実施した理由（きっかけ）については以下の回答であった。

- ・生徒の学習意欲の向上が期待できるから
- ・生徒それぞれの理解度・習熟度に合わせた学習ができるから
- ・教員の指導力向上が期待できるから
- ・新型コロナウイルス感染症への対応のため

ICT を活用した教育活動を実施して得られた成果については以下の回答であった。

- ・生徒に学習意欲の向上が見られた
- ・生徒それぞれの理解度・習熟度に合わせた学習ができた
- ・教員の指導力が向上できた
- ・教員の業務が効率化できた
- ・新型コロナウイルス感染症への対応や対策ができた

ICT を活用した教育活動の実施に伴う課題や問題点については以下の回答であった。

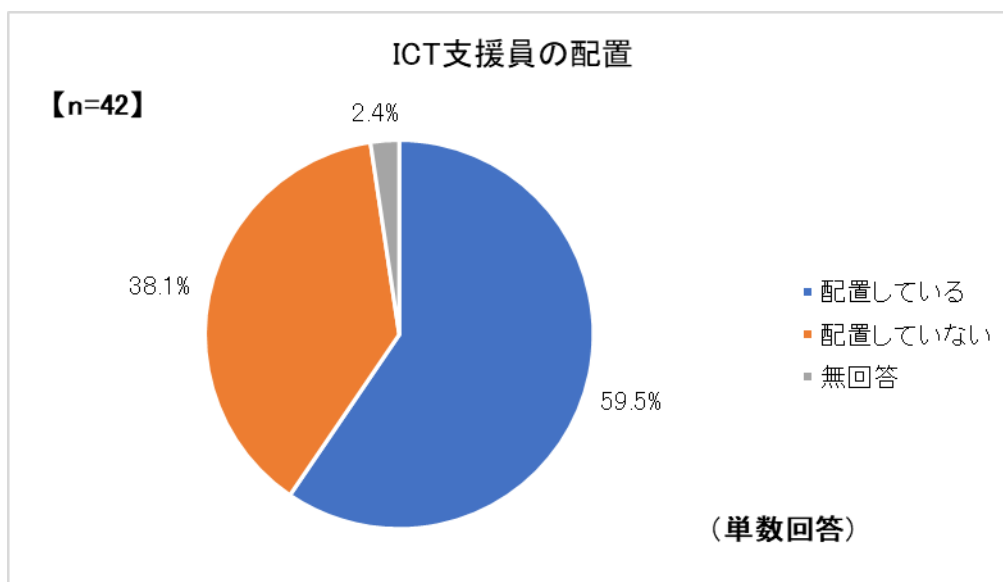
- ・回線の通信速度が遅い
- ・音や映像が途切れる
- ・ICT 機器のセッティングに時間がかかる
- ・普段よりも授業の準備に時間がかかるなど、教員の負担が増加した

ICT を活用した教育活動を強化できる条件や環境については以下の回答であった。

- ・ ICT 機器（端末）の整備
- ・ ネットワーク環境（Wi-Fi 等）の整備
- ・ 教員向けのサポートプログラムの提供
- ・ ICT に関してサポートができる人材の確保
- ・ 提携・協力先リストの整備
- ・ ICT を活用した教育活動の効果が明らかになること
- ・ ICT を活用した教職員向けの研修の実施が可能となること

1-3 ICT 支援員について（沖縄県・市町村教育委員会対象）

ICT 支援員の配置状況については、「配置している」が 59.5%、「配置していない」が 38.1%であった。



各市町村の ICT 支援員の実人数の平均は 1.7 人である。

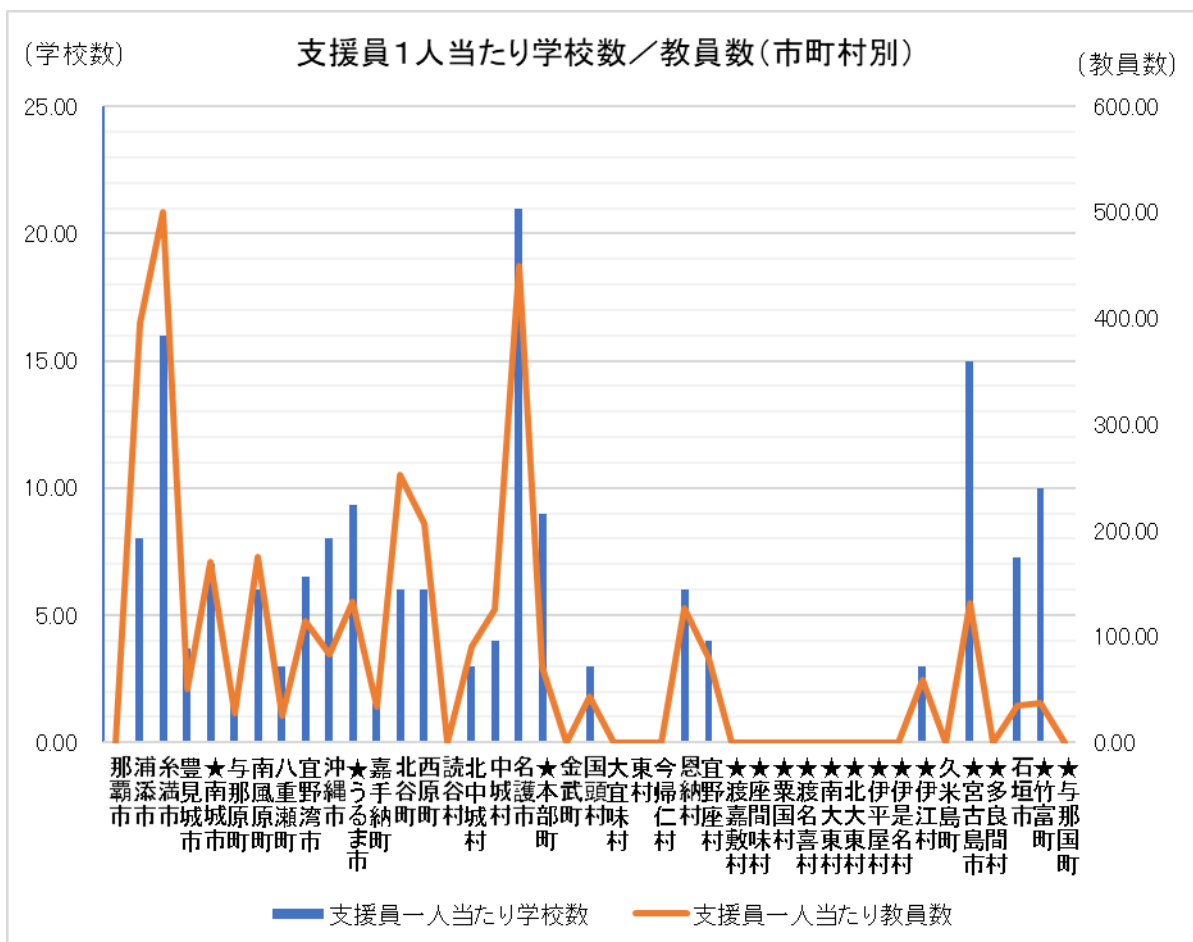
また、ICT 支援員が配置又はカバーしている学校数は以下のとおりである。

- ・各市町村の小学校と中学校合算の平均：11.8 校（所管小学校数の平均：6.3 校、所管中学校数の平均：3.4 校）
- ・高校：60 校（県立高校 60 校）

各自治体別にみる ICT 支援員 1 人当たりが支援する児童・生徒・教員のそれぞれの人数は下記の通りである。

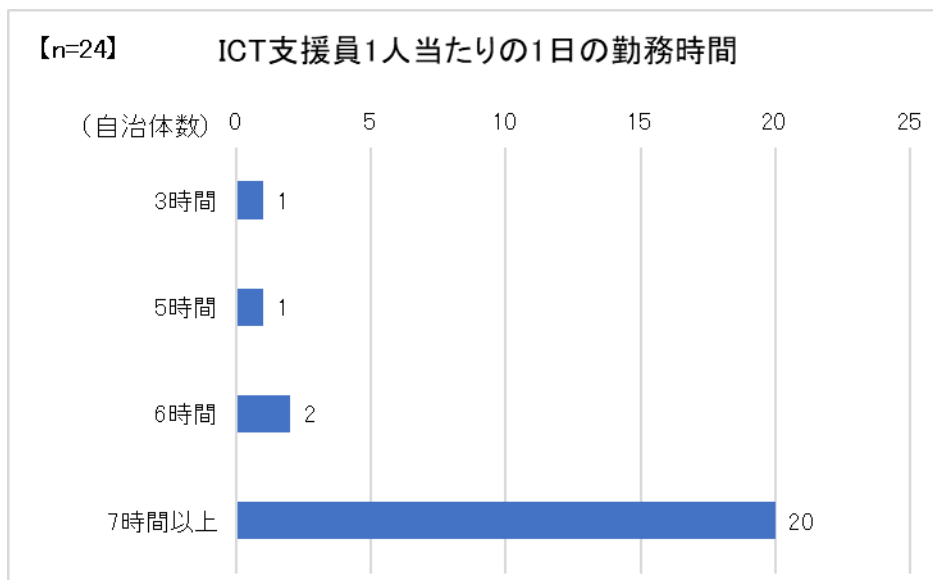
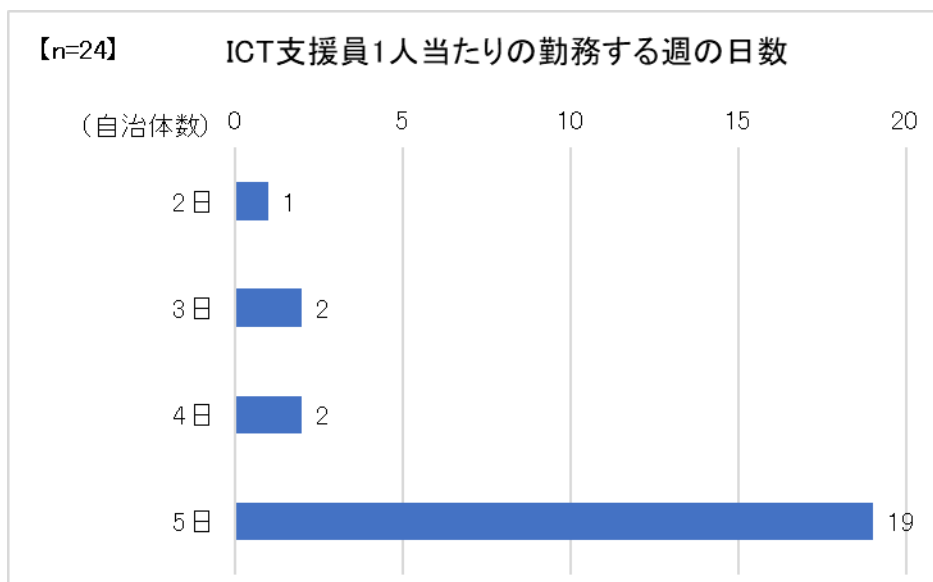
- ・児童・生徒の人数平均は 3,069.5 人
- ・教員の人数平均は 208.5 人

また、下記のように ICT 支援員 1 人当たりが支援する学校数、教員数を市町村別に整理した。支援員 1 人当たり学校数が 15 以上は 3 自治体、支援員一人当たり教員数が 100 以上は 12 自治体あった。

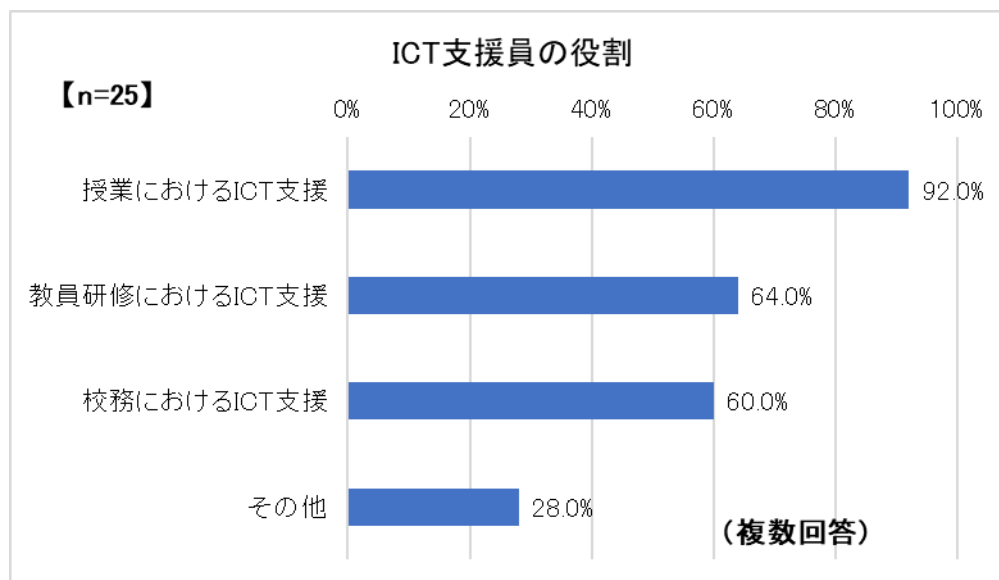


各自治体別のICT支援員1人当たりの勤務する1週間当たりの日数は平均4.6日であった。また、1日当たりの勤務時間の平均は6.8時間であった。

ICT支援員1人当たりの勤務する1週間当たりの日数は5日と回答した自治体が19自治体と多くなっている。1日当たりの勤務時間は7時間以上が20自治体であった。



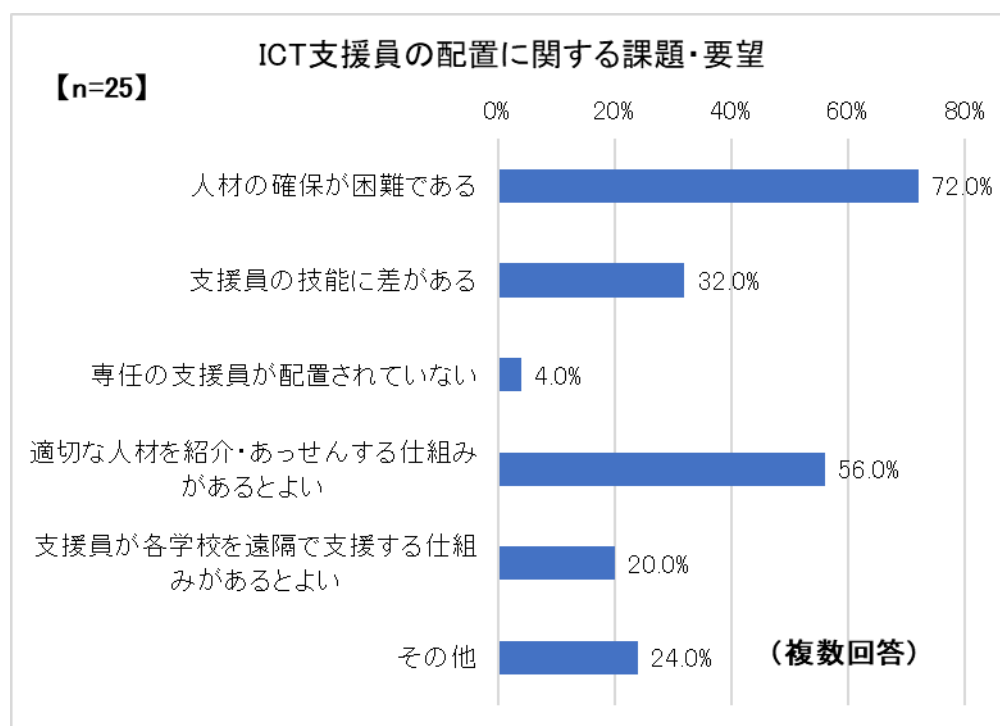
ICT 支援員の役割は、「授業における ICT 支援」が 92.0%で最も多く、次いで「教員研修における ICT 支援」が 64.0%、「校務における ICT 支援」が 60.0%であった。



その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・ 各種不具合への初期対応
- ・ 児童のコンピュータ学習指導(PCに関する基本操作からネット検索等)の実施
- ・ 整備や保守管理について
- ・ 児童生徒の PC 使用、入力等の補助
- ・ ICT 機器の障害対応
- ・ 環境整備
- ・ ICT 活用促進に関する情報収集や調査研究等

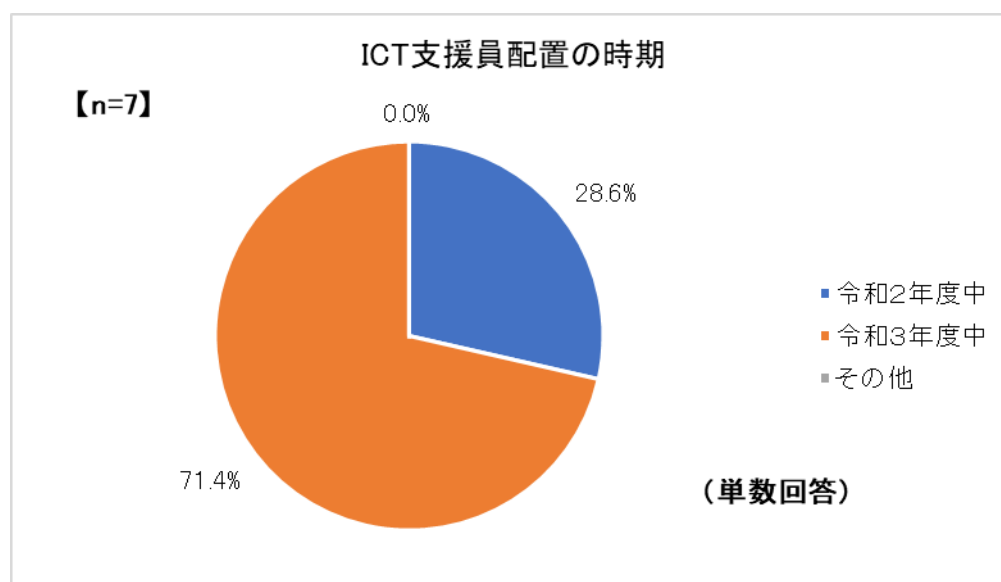
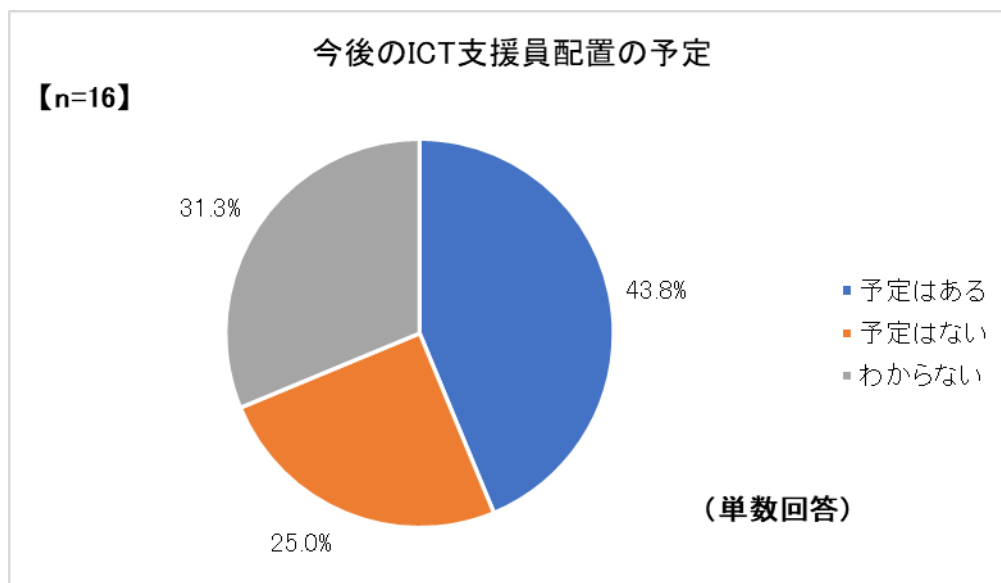
ICT 支援員の配置に関して困っていることや要望としては、「人材の確保が困難である」が 72.0%で最も多く、次いで「適切な人材を紹介・あっせんする仕組みがあるとよい」が 56.0%、「支援員の技能に差がある」が 32.0%となった。



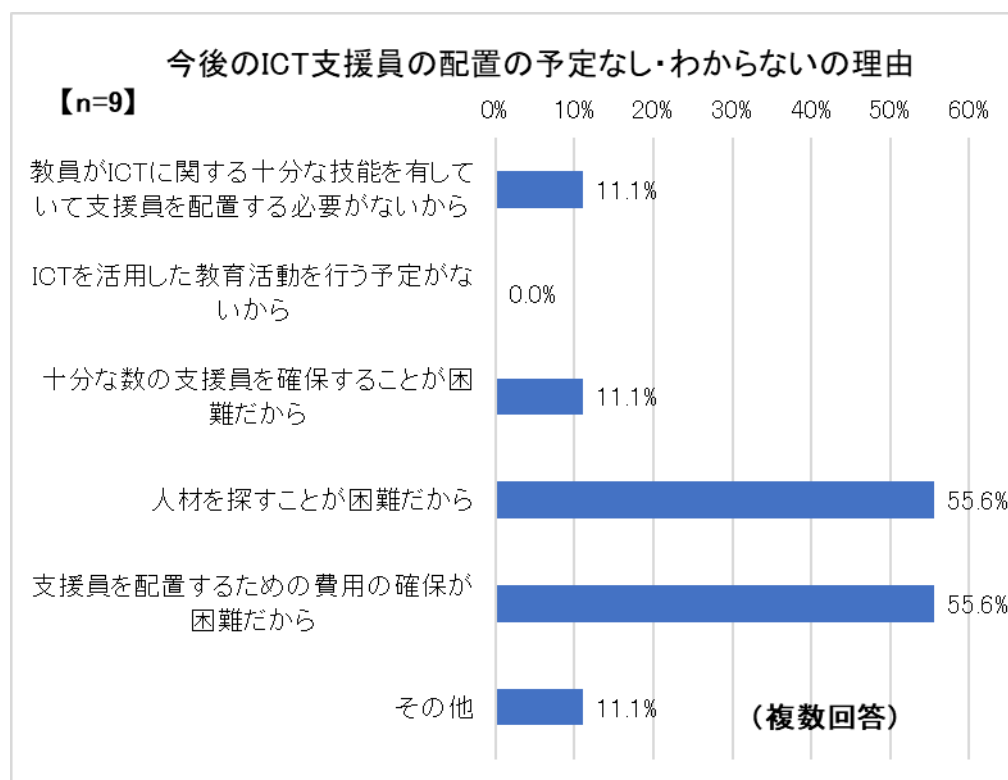
その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・国の統一的な補助等がなく、予算措置を図りづらい
- ・国の費用補填拡充
- ・支援員配置に関する補助事業が欲しい
- ・遠隔で支援する仕組みは、今後必要になってくると思うが、ICT教育が浸透していくまでは学校現地で直接支援していただける支援員の方がいると良い
- ・予算措置
- ・学校において ICT 活用の推進には増員が必要だが、予算確保が困難な状況である

ICT 支援員を「配置していない」と回答した自治体に今後の予定を確認したところ、「予定はある」が 43.8%、「予定はない」が 25.0%、「わからない」が 31.3%であった。「予定はある」と回答した自治体の配置予定時期は、「令和2年度中」が 28.6%、「令和3年度中」が 71.4%であった。



ICT 支援員の配置について「予定はない」、「わからない」と回答した理由は、「人材を探すことが困難だから」「支援員を配置するための費用の確保が困難だから」がそれぞれ 55.6%であった。



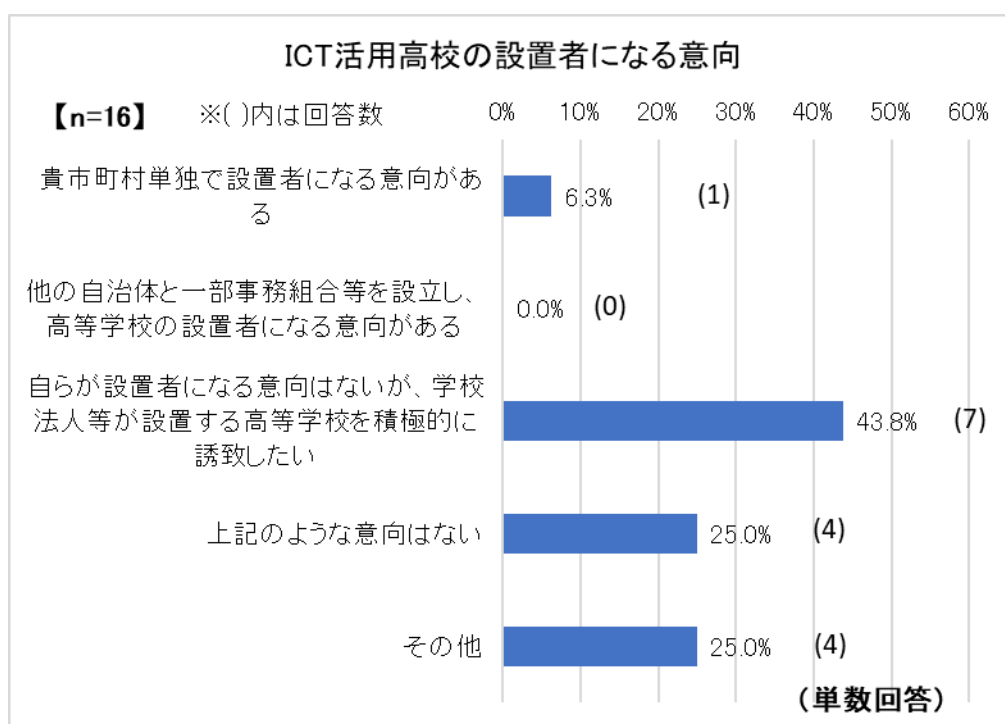
その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・ GIGA スクール事業の準備段階なので配置の予定も未定のため
- ・ ICT 支援員を入れたいと思っはいるが、予算や人員の確保が困難である。

第2節 ICTを活用した高等学校の設立意向（各離島市町村長対象）

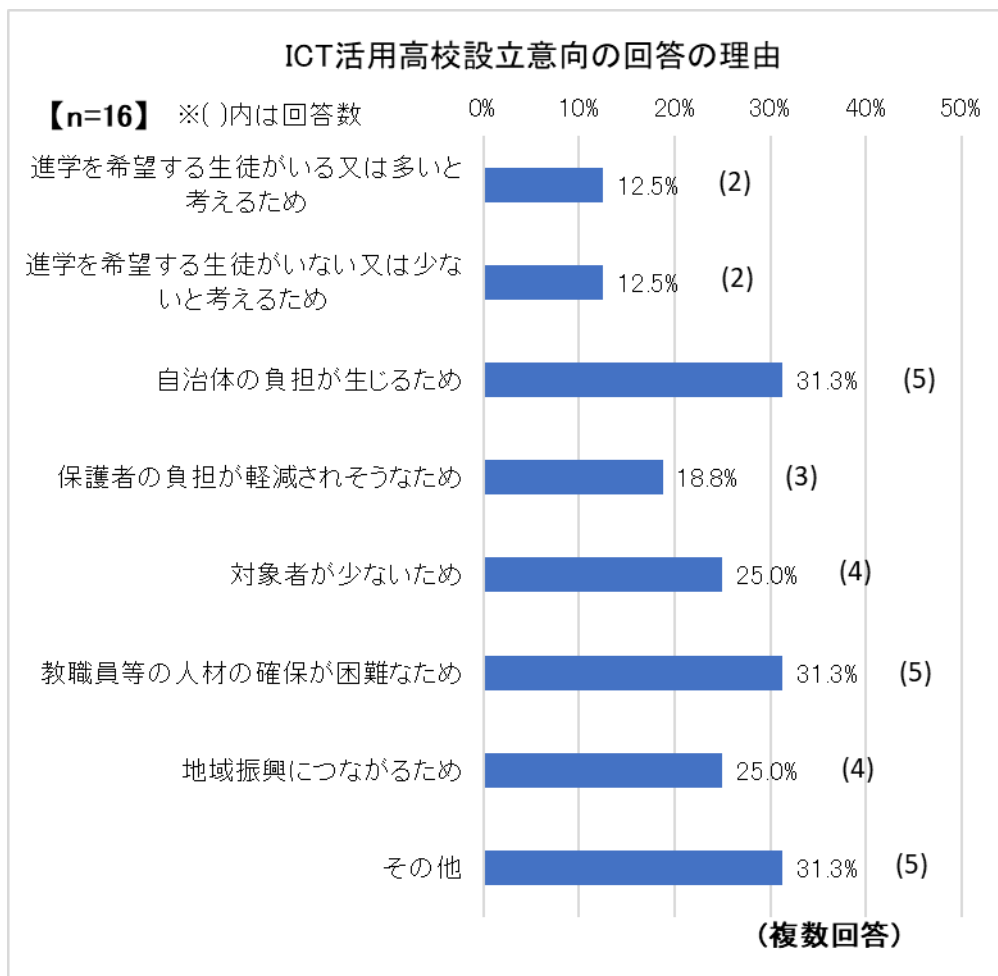
ICTを活用した高等学校の設立意向について、高校のない離島を有する沖縄県内の各市町村長を対象に調査を実施したところ、「自らが設置者になる意向はないが、学校法人等が設立する高等学校を積極的に誘致したい」が7自治体（43.8%）、「上記のような意向はない」が4自治体（25.0%）であった。

回答の理由としては、「自治体の負担が生じるため」「教員等の人材確保が困難なため」がそれぞれ5自治体（31.3%）、「対象者が少ないため」「地域振興につながるため」がそれぞれ4自治体（25.0%）であった。



その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・すでにN高等学校本校がある
- ・現在、本村においてICT利活用検討委員会が設立され、ICTを利用した通信制高等学校の誘致など幅広い活用方法について検討協議中である
- ・保護者・子供達のニーズを調査する必要があると思う。



その他の回答として以下のような自由記載があった。

- ・島内での進学希望者がほとんどいない
- ・ICTを活用した高等学校の設置の意向は現在も今後もない
- ・設置に伴う負担が理解できていない
- ・15歳で本島に渡るのが当然なので、島内に高校を設置する意思はない
- ・保護者・子供達のニーズ調査の回答をふまえて検討する必要があると考える。

学校における ICT を活用した教育に関して、意見や要望、期待すること等について自由記載で下記の回答があった。

<ul style="list-style-type: none">・ ICT 技術の発展により、離島における新たな高等教育の可能性に期待をする・ 高校のない離島の子供や家庭の苦労や経済的負担を解消する手段として、将来的に大いに可能性があると考えており、本事業の実証事業の先に実現されることを期待する。
<ul style="list-style-type: none">・ 本島にて中途退学、不登校になった際島内で ICT を活用した高等学校に通学して高等学校卒業の資格を習得させることができればよいと考える
<ul style="list-style-type: none">・ そもそも高校生は島外に出てしまうことが当然という状況があり、島内に高校を作ろうとしても生徒になりうる対象者がいない。ICT を活用した教育を実施することで、対象者のいない高校を新たに作るよりも、既に対象者となりうる中学生がいるので、そちらの方に注力したい。ICT 活用で人材を育むことはすばらしいと思うが、高校生を対象と考えると、高校生が島内にいるのは夏休み期間中しかないなので、夏休みという限定の中で人集めが本当に可能なのか疑問。
<ul style="list-style-type: none">・ ICT を活用した高校設置にどのようなインフラや人材が必要かわからない
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍においても、児童・生徒の学びの質が損なわれないよう、ICT を積極的に活用した教育を推進して頂きたい
<ul style="list-style-type: none">・ 島を出て社会勉強を経験させたい、したいという気持ちを持っている親子がほとんどで、島に高等学校を設置しても居残って学ぶ生徒は少ないと思われる・ 群星寮（離島出身者用寮）の開設が教育費の軽減にもつながっており、現状の教育環境に不満を持つ者は少ないと思われる
<ul style="list-style-type: none">・ 日本の教育・社会活動における ICT の遅れを早急に取り戻したい（国際水準との比較において）
<ul style="list-style-type: none">・ 将来島を離れても島に還元することができる可能性、また、島に居住しながらリモートワークできる職業の可能性など、ICT 活用で島に還元できることを体験できる教育の充実

(自治体の回答ごとに記載)